

2024年度 事業計画

(自 2024年1月1日 ～ 至 2024年12月31日)

一般社団法人日本医療薬学会

2024年度は、第16回定時社員総会(3月下旬に開催予定)の終結後から新役員体制が発足する。それに伴い4月から全ての委員会も組織替えとなる。新たな組織体制下で2024年度も会員のニーズを捉えつつ、多くの者が参画し、有意義と感じられる事業活動を持続的に展開する。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行を受け、対面開催への参加者数の増加傾向が見られる一方で、WEB開催のものについては参加・視聴の自由度の高さが評価され、継続的な実施を希望する声が多く寄せられている。学術大会小委員会では、将来にわたる年会やフレッシュャーズ・カンファレンスの運営のあり方を検討する。また、専門薬剤師制度は2020年の新制度への移行から5年目を迎え、過渡的に講じられた一連の措置の適用される最終年度となるが、専門薬剤師制度小委員会では、専門薬剤師制度のあり方、専門薬剤師の育成から認定資格の継続などのキャリアプランに係る検討を進める。

少しずつではあるがフレッシュャーズ・カンファレンスの充実化が進展している。より多くの薬学生が学術活動への興味を持ち且つ参画できるような方策の検討を進めるとともに、同カンファレンスの一層の充実化を進める。また、JPHCS誌は創刊9年目でインパクトファクター(Clarivate Analytics社)を取得した。今後、更なる認知度の向上及び投稿数の増加に向けた取り組みを進める。

1. 年会開催

第34回日本医療薬学会年会

年会長 本間 真人(筑波大学附属病院 薬剤部長、教授)

開催日程 2024年11月2日(土)～4日(月・祝)(予定)

開催地 幕張メッセ、他

ハイブリッド開催(現地+WEB開催)

2. 医療薬学公開シンポジウム開催

第93回～第96回医療薬学公開シンポジウムを開催予定(4回)

3. フレッシュャーズ・カンファレンス開催

第7回フレッシュャーズ・カンファランス

実行委員長 根岸 健一（北里大学薬学部 教授）

開催日程 2024年6～7月頃（予定）

開催地 北里大学・白金キャンパス（東京都港区）

4. 医療薬学誌の発行

第50巻1号～12号を発行する。（毎月発行）

5. JPHCS 誌の発行

第10巻をオープンアクセスジャーナルとして発行する。（随時掲載）

6. 会議開催

- 1 第16回定時社員総会（2024年3月中旬から下旬頃に開催予定）
- 2 第16回臨時社員総会（第34回日本医療薬学会年会会期中に開催予定）
- 3 理事会 年間6回開催予定

7. 各委員会活動

(1) 総務委員会

- 1 働き方改革・感染対策等を念頭にした学会運営・会議等の電子化等を引き続き推進する。
- 2 規程等の整備と管理を行う。定款見直しの必要性に係る検討を行う。
- 3 事務局体制の整備・強化を行う。
- 4 年会運営に関する必要な事項を調整・整備する（小委員会）。
- 5 年会長候補者を決定する（小委員会）。
- 6 事務局会議室改装に係る必要な調整・検討を行う（小委員会）。
- 7 その他、会の円滑な運営に必要な事項を検討する。

(2) 財務委員会

- 1 本学会の資産を適切に管理する。
- 2 予算の執行状況を定期的に確認する。
- 3 歳出入の適切性を監視する。
- 4 年会の組織委員会に参画し、年会長と理事会及び学会事務局との連携を推進する。
- 5 年会会計を適切に管理・監督する。
- 6 2023年度決算報告書を作成する。

- 7 公益社団法人への移行を見据えた 2025 年度予算案を編成する。
- 8 学会運営の活動状況に対応した財務の見直しを提言する。

(3) 企画・シンポジウム委員会

- 1 2024 年度に開催される公開シンポジウム運営への助言、支援を行う。
- 2 2025 年度以降の公開シンポジウムの開催のあり方を協議する。
- 3 本学会の委員会等が企画するプログラムの年会への組み入れを年会長に提言する。

(4) フレッシュヤーズ活性化委員会

- 1 第 7 回フレッシュヤーズ・カンファランスを開催することで、若手・新人の発表の場を提供するとともに、優秀な若手・新人を顕彰する。
- 2 2025 年度以降のフレッシュヤーズ・カンファランスの開催のあり方を協議する。
- 3 医療薬学教育委員会と連携し、若手・新人の研究アクティビティの向上策について検討する。

(5) 広報・出版委員会

- 1 広報用リーフレットの作成
 - ① 2024 年度版のリーフレットを薬学生に配布する。
 - ② 教育委員会と連携して掲載内容を見直す。
- 2 ホームページの更新及び改訂を継続する。
 - ① ホームページを刷新（リニューアル）する。
 - ② 委託業者を選定し、大規模な変更作業を進める。
- 3 一斉配信メールなど、会員への広報活動の促進策を検討する。
- 4 出版小委員会が担う「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」の改訂に係る出版活動を支援する。
 - ① 自己研鑽に役立つ薬物療法に関する入門書としての位置づけで全面改訂する。
 - ② 「専門薬剤師の養成研修コアカリキュラム」で求められている内容も反映する方向で記載項目を検討する。

(6) 会員委員会

- 1 正会員及び学生会員数の増加策を検討する。特に薬局薬剤師、薬学生や大学院生、製薬企業所属者、行政関係者の会員増加策に関する検討を行う。
- 2 会員管理システムの利便性をより高めるための方策を検討する。
- 3 退会した会員の意見をもとに、会員の継続を可能にする方策を検討する。

(7) 医療薬学編集委員会

- 1 投稿論文の審査・採否の決定・掲載とより迅速で適切な体制整備をさらに検討する。
特に投稿規定の整備と審査の適正化に関する検討を行う。
- 2 医療薬学誌第 50 巻を発行する。
- 3 投稿論文並びに掲載論文の増加策のさらなる検討と学術誌としての質の維持・向上を図る。
- 4 医療薬学誌の紙媒体としての特性を踏まえたコンテンツの再編と、学術誌としての機能に加えて、会員からの情報提供・共有を図る媒体として活用することを再度検討する。

(8) JPHCS 編集委員会

- 1 JPHCS 誌の論文投稿を随時受付け、これを審査し、受理された論文を第 10 巻に掲載する。
- 2 JPHCS 誌の認知度向上および投稿数増加に向けた取り組みを検討、実施する。

(9) 専門薬剤師制度運営委員会

- 1 各専門薬剤師制度を統括し、制度の整備及び運営を管理・監督する。
- 2 各専門薬剤師制度の諸規程の新規策定及び見直しを検討する。
- 3 各専門薬剤師制度の研修施設の認定審査を実施する。
- 4 各専門薬剤師制度の連携研修の運営管理を行う。
- 5 下部組織として、次の小委員会及びワーキンググループを置き、その運営を管理・監督する。

① 薬物療法集中講義企画・運営小委員会

- ・ 薬物療法集中講義を企画・運営する。

② 専門薬剤師認定試験小委員会

- ・ 専門薬剤師認定試験の試験問題を作成する。
- ・ 専門薬剤師認定試験の実施と採点を行い、合否判定結果を上申する。

③ 専門薬剤師制度支援システム検討ワーキンググループ

- ・ 認定申請及び審査の円滑な実施に向けた申請・審査システムを構築する。
- ・ 研修施設（連携研修を含む）を管理するシステムを構築する。

(10) 医療薬学専門薬剤師認定委員会

- 1 医療薬学専門薬剤師、医療薬学指導薬剤師の新規及び更新に係る認定審査を実施する。

- 2 医療薬学専門薬剤師研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 3 医療薬学専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 4 下部組織となる医療薬学専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
 - ・ 医療薬学専門薬剤師研修ガイドライン及びカリキュラムを制定する。
 - ・ 受講単位の対象となるセミナーを受け付け審査・認定する。
- 5 医療薬学専門薬剤師、指導薬剤師を国際的に対応可能なものにするため、国外における医療薬学専門薬剤師、指導薬剤師の制定状況、認定要件などを調査する。

(11) 薬物療法専門薬剤師認定委員会

- 1 薬物療法専門薬剤師、薬物療法指導薬剤師、研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 薬物療法専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 3 薬物療法専門薬剤師の育成(症例サマリのまとめ方)と全国に向けた情報発信を行う。
- 4 薬物療法専門薬剤師の申請に係る症例サマリのまとめ方セミナーならびに薬物療法専門薬剤師アドバンスト研修会を実施する。(年1回、他の学会との共催、本学会年会でのシンポジウムの企画を含む)
- 5 下部組織となる薬物療法専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
 - ・ 薬物療法専門薬剤師研修ガイドライン及びカリキュラムを更新する。
 - ・ 単位認定の対象となるセミナーの申請を受け付け審査・認定する。

(12) がん専門薬剤師認定委員会

- 1 がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 がん専門薬剤師の養成及び有資格者を対象とした研修会を立案し実施する。
 - ① がん専門薬剤師集中教育講座を日病薬と共催で実施する。(年1回予定)
 - ② がん専門薬剤師アドバンスト研修会を実施する。
 - ③ がん専門薬剤師全体会議を実施する。
 - ④ がん専門薬剤師の申請に係る症例サマリのまとめ方セミナーを実施する。(年3回、地方での開催、他の学会との共催、本学会年会でのシンポジウムの企画を含む)
- 3 がん専門薬剤師認定試験の問題を作成し試験を実施する。
- 4 がん領域の他学会とのコラボレーション企画を検討して実施する。
- 5 がん専門薬剤師の研修ガイドライン及びコアカリキュラムを改訂する。

(13) 地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会

- 1 過渡的認定を含む地域薬学ケア専門薬剤師の認定審査を実施する。
- 2 地域薬学ケア専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 3 地域薬学ケア専門薬剤師の育成（症例サマリのまとめ方）と全国に向けた情報発信を行う。
- 4 下部組織となる地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
 - ① 本学会年会及び他学会等の学術大会において、症例サマリのまとめ方に係るシンポジウム等を企画し開催する。
 - ② 地域薬学ケア専門薬剤師研修ガイドライン及びカリキュラムを更新する。
 - ③ 受講単位の対象となるセミナーを受け付け審査・認定する。

(14) 功績賞選考委員会

- 1 功績賞選考規程に基づき、功績賞受賞候補者を選考する。
- 2 振興賞選考規程に基づき、振興賞受賞候補者を選考する。

(15) 学術関連賞選考委員会

- 1 学術に関連する賞として、日本医療薬学会賞、学術賞、奨励賞及び Postdoctoral Award の各受賞候補者を募集し、各賞の選考規程に基づき各受賞候補者を選考する。
- 2 論文賞選考規程に基づき、医療薬学誌第 49 巻および JPHCS 誌第 9 巻の各誌に掲載された論文より、医療薬学誌論文賞および JPHCS 誌論文賞受賞候補論文を選考する。

(16) 医療薬学教育委員会

- 1 薬学生（初年次から）に対して、医療薬学研究や医療薬学会への理解を促す。
 - ① フレッシュヤーズ活性化委員会や各薬学部等と協調し、学生に医療薬学研究や医療薬学会の魅力伝える活動（ウェビナーやフレッシュヤーズ・カンファランスとの合同企画など）を計画する。
 - ② 上記で計画した企画の実行やニーズの調査などを行う。

(17) 臨床研究推進委員会

- 1 臨床研究セミナーを企画・開催し、会員の研究活動を推進する。
- 2 本学会年会においてシンポジウムを企画し、臨床系薬学教員等の研究活動の活性化を支援する。
- 3 会員による医療薬学研究（疫学研究等）を支援するための方策について検討する。

(18) 国際交流委員会

- 1 本学会年会において国際シンポジウムを企画・開催するとともに、**International Session** として一般演題の口頭及びポスター発表を企画する。
- 2 海外研修等助成に関する事業を運営する。
- 3 国際シンポジウムへの推薦など、会員の国際活動の活性化を図る。
- 4 広報・出版委員会及び年会あり方検討委員会と協力して、英文ホームページの更新を検討する。

(19) 利益相反マネジメント委員会

- 1 利益相反（COI: Conflict of interest）の申告対象者の利益相反状態を確認する。
 - ・「一般社団法人日本医療薬学会 利益相反マネジメント規程」の内容を再確認し、必要に応じて適正化を図る。特に、規程 COI 自己申告対象者、運用方法（申告依頼、提出管理）について見直し要否を検討する。
- 2 申告書類を保管する。
 - ・事務作業の効率化を検討する。特に、電子的な申告、確認、管理等のシステム導入可否について検討する。

(20) 医療薬学学術委員会

- 1 学術活動の活性化に繋がる研究テーマを精査・選定し、研究課題を公募する。
- 2 応募案件の中で学術小委員会として支援に資する研究課題を選考する。（3件程度）
- 3 2023 年度に発足した学術小委員会並びに継続する小委員会を支援・統括するとともに、COVID-19 関連薬物相互作用マネジメント手引きのメンテナンスを担当する小委員会活動を支援する。
- 4 下部組織の医療薬学学術小委員会で、以下の事項を実施する。
 - ① 研究計画に沿って研究を実施し、年度毎に研究報告書を作成する。
 - ② 研究最終年度には、年度毎の報告に加えて、研究成果最終報告書を提出する。
 - ③ 本学会年会において、研究成果に関するシンポジウムを企画・開催する。

(21) 将来計画検討委員会

本学会の将来構想に関わる事項として、事業の継続性を担保し本学会の持続的な発展に資する検討を進める。

- 1 本学会が目指す規模や他団体との関係性を議論する。
- 2 WEB 開催を活用した年会や各研修会の運営方法や体制の検討を進める。
- 3 専門薬剤師制度のあり方、専門薬剤師の育成から認定資格の継続などのキャリアプランに係る検討を進める。

- 4 代議員選挙制度の改正に係る検討を進める。
- 5 公益社団法人への移行に係る検討を進める。

(22) 製薬企業連携検討委員会

製薬企業・団体との連携を進め、本学会の活動領域を拡張するとともに、製薬領域の活動や考えを医療現場や大学で活動する会員に広めることを検討する。

(23) 情報システム整備委員会

将来計画検討委員会、広報・出版委員会、会員委員会などと連携し、利便性且つ持続的に活用できる情報システムの枠組みや構築を検討する。

(24) 医療安全対策委員会

医療事故調査支援制度に係る医療事故調査・支援センターの協力学会として、調査依頼案件への協力活動を進める。

(25) その他

- 1 日本学術会議や日本薬系学会連合に参画し、活動に協力する。
- 2 他学会や学術・職能団体等と連携・協力し、本学会の活動を進める。